

# U・Iターニング生き方伝授

一般社団法人SAVE  
TAKATAが呼び掛け、

有志でつくった次世代育成準備委員会は30日、陸前高田市高田町の中(吉家秀明校長、生徒281人)でキャリア教育講演会を初めて開いた。震災などを機にU・Iターニングした若者8人が、1年生93人に直接自身の経験や思いを披露。生徒たちは人生の先輩からメッセージを受け取り、自らの未来をどう描き、進んでいくかを考えた。

**陸前高田・  
若者有志ら**

「Youは何しに陸前高田に?」と題して企画。同委員会メンバーの団体職員や市職員、個人事業主、会社員ら20代、30代の8人が講師となり、各教室で陸前高田の自然や人の素晴らしさや今の仕事を始めたきっかけなどを話した。

## キャリア教育 初実施

### 一中で講演会 進路考える一助に



社会人から仕事のやりがいなどについて学ぶ一中の生徒

SAVE TAKATAの佐々木信秋代表理事(34)はUターン経験者。東京で10年間、学生や社会人として

生活し、震災後に同法人を設立した。仕事の意義について「高田では自分が辞めたら代わりはいない。や

りがいや仕事の深さが違う」と、古里で働くことの重みや手応えを強調した。全体会で生徒たちは「震

災後の高田の印象は「中学生のうちにやっておくべきこと」は「実現したい夢は何か」などと質問。社会人講師の答えから、自分の将来を考える参考にした。

学年委員長の松田由希菜

さんは「高田の気づかなかった魅力や進路について考えることができた」と熱心に耳を傾けた。

次世代育成準備委は今後も、10代を対象にしたキャリア教育講演会を開いていく考え。青少年の世代が地

元に関心と愛着を持ち、まちづくりに関わってもらうことを目標にする。

事業を担当する同法人の山本健太さん(31)は「若者が未来に希望を持てるように手伝いをしたい」と思いを語る。